

# 英語語彙学習のためのCALLソフトウェア開発

進藤三雄

## 0 はじめに

急速に情報化が進む現在、これからの大学生に求められるのは、必要な情報をより正確に、より迅速に入手する能力である。とりわけ外国語による情報に関しては、十分な読解力と聞き取り能力が今後ますます求められるであろう。また、読む・聴くといったインプット能力が向上すれば、それだけ話す・書くといったアウトプットのための能力も向上するわけで、自己表現力の強化にもつながるであろう。読む・聴くといったインプット能力を向上させるためには、できる限り多くの語彙を習得することが必要となる。島本（2002）は、約3,000語が読解のための基本的な語彙力であるという説を支持し、語彙力と読解力の強い相関関係を指摘している。

ところが、新学習指導要領において学ぶべき語彙数は、中・高合わせて200語の減少となり、結果、高校の教科書等で使用される語彙数は平成元年度の「2,400語まで」から「2,200語程度まで」となった。その背景には、学習時間数減に加えて、人と人のコミュニケーションを図るための英語力の養成の徹底（村田、2002）という目的がある。このように今後大学に入学してくる学生の語彙力は低下していくものと予想され、それを補うための対策が大学教育においては急務であると言えよう。

学習者の語彙力を高めるためには、効果的な学習方法と十分な学習量が保証されなければならない。しかし、現在のように外国語教育に十分な時間が割り

当てられていないカリキュラム体制の中では、適切な語彙指導をすることは難しい。このような状況の中で効果的な語彙指導を考えたときに、授業以外の空き時間を使った学習形態が必然的に考えられる。そのような学習形態のひとつにCALL (Computer - Assisted Language Learning) がある。語彙学習のように個人差が大きく、反復練習が必要となる学習分野においては、コンピュータの有用性が再度見直され、今後、より積極的に利用されるべきであると考えられる。本稿では、英語語彙学習のためのCALL用ソフトウェア開発の実践と、その効果について論ずる。

## 1 現 状

熊本県立大学総合管理学部（以下、本学部）は社会からの要請に応えるため、1996年度より1年生全員にTOEICの団体特別試験（IP）の受験を義務付け、2、3年生に関しては、受験料を免除するかたちで受験を推奨してきた。また2001年度より非常勤講師の協力を得て、1年生の英語評価の10%にTOEICの結果を組み込む評価方法を取り入れ、学生の英語学習に対する動機付けの一助にしている（2年生は受験した学生に対してのみ、ボーナス点として最高10点を評価に加えている）。

本大学のCALL教室は1994年に設置され、当時としては最新のMacintosh (Power Mac) が30台導入された。その他にも教材提示装置、ビデオ/レーザーディスクプレイヤー、大型モニター、衛星放送受信機、キャプションデコーダー、プリンターなどの周辺機器も設置された。ソフトに関しては、当時一斉授業で使用するため、“Mova City”をコンピュータの台数分購入した。ただ、マニュアルが日本語で書かれてあったため、積極的に利用されなかった (Painter, 1995) ようである。現在も当時の設備がそのまま使われているが、その処理能力は遅く、最新の市販ソフトウェアを実行するとうまく作動しないこともある。コンピュータ技術の進歩を考えれば、耐用期間はすでに過ぎていると言えよう。また学内LANにも接続されていないため、WWWや電子メールが利用できないのも時代にそぐわない。しかしながら、昨今の厳しい財政事

情の下、直ちに機器が一新される可能性は低く、また、最新の機器を備える情報教育のためのコンピュータ教室には一般の語学教材の導入はメンテナンス等の問題が絡み難しいという現実を考えると、当面このCALL教室を再利用して語彙学習のための学習ソフトを開発することが現実的であろう。

## 2 方法

### 2-1 自己開発ソフトの利点

語彙に関する市販ソフトは数多く存在するが、それを利用する場合、コンピュータの数だけソフト使用権を獲得しておくことが当然必要である。また学習者がいちいちCD-ROMを借りてコンピュータにインストールしてから学習するのではなく、すでにハードディスク内に学習ソフトが常駐されていることが、学習者の学習意欲を失わせないためにも望ましい。しかし、コンピュータ30台分のソフトの著作権を購入することは高額な予算を必要とし、手続きにもかなり時間がかかる。これに対し自己開発ソフトは、その開発にある程度の時間はかかるものの、このような経済的な問題は解決してくれる。また教師が学習者のニーズと能力に見合った教材を作成することができるため、学習者からの反応を見ながらいつでも改良することができるのも大きな利点である。教師が自分の授業内容に即した学習ソフトを作ることができるということは、授業内容を定着させるための補助教材や、遅れがちな学生のチュートリアル用教材を準備する際にも大変便利である。以上のことから、自己開発ソフトは市販のソフト以上に教育現場に直結した外国語学習を可能にしてくれると言えるであろう。本学部では、近年、読解力やTOEICに対する指導が急務となったため、今回は語彙指導の重要性も考慮した結果、「基本語彙TOEIC 500」を作成することにした。

### 2-2 オーサリングソフト

開発のためのオーサリングソフトは、システムがMacintoshということもあり、当初Web-basedでの利用を考えてSuperCardを予定したが、現在の

ハードウェアの処理能力を考慮し、HyperCardを使用することにした。SuperCardとHyperCardはプログラミングにおいてかなり互換性があり、将来ハードウェアが更新された場合でも作成したソフトをSuperCard用に書き換えることができ、web-basedでの利用も可能になると考えたからである。HyperCardは比較的容易に自作の教材作成を可能にしてくれ、また、音声やグラフィック、QuickTimeを使った動画など、マルチメディアを駆使した教材作りも可能である。尚、ソフトの開発にあたっては、ニュージーランドMassey大学のマルチメディア教室の日本語教材及び各種教材作成マニュアルを参考にした。

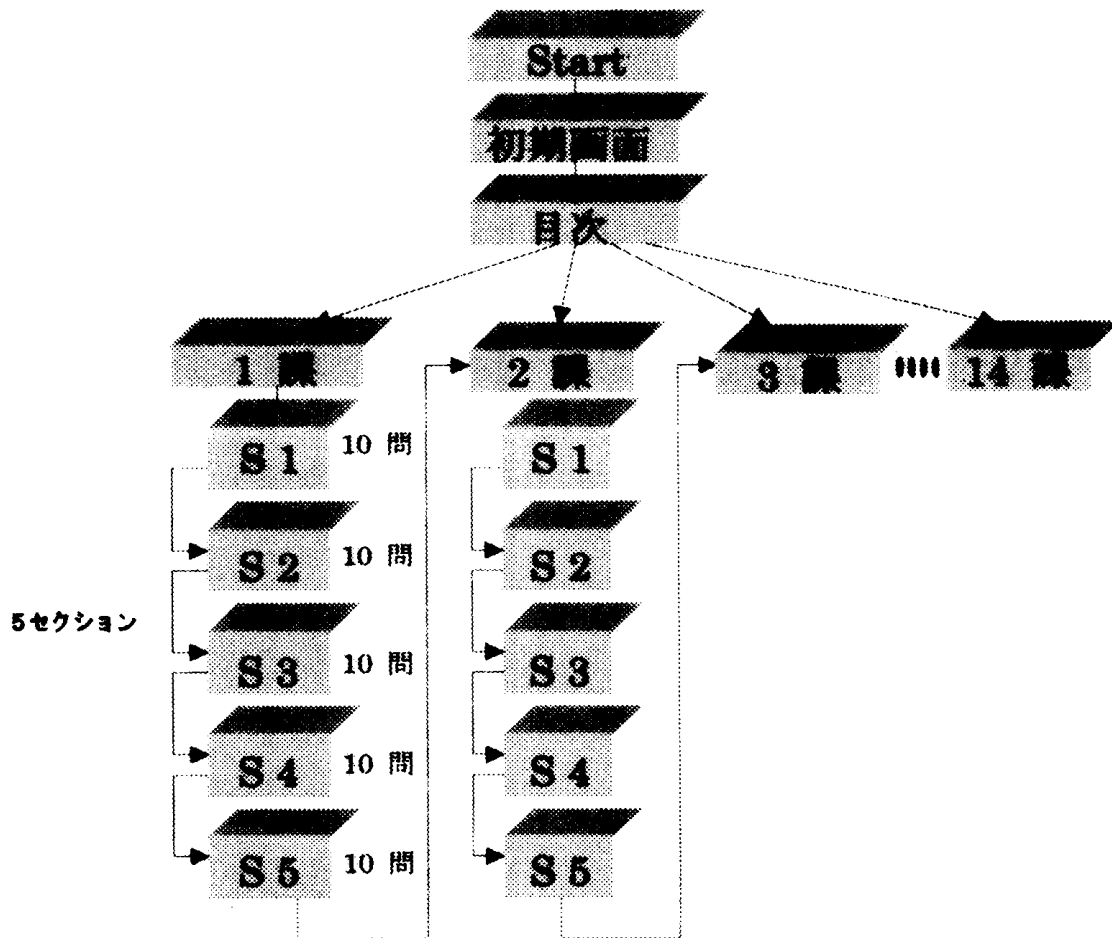
### 2-3 「基本語彙TOEIC 500」の概要

このソフトはTOEICの470点から500点レベルを目標設定に据えた基本語彙学習支援ソフトであり、同時に大学1年生が必ず覚えておかななくてはならない基礎的な語彙も含んでいるため、新入生の語彙力の基礎固めに役立つと考えられる。語彙の選定にあたっては北海道大学の語彙表などを参考に選定し、大学初級レベルを中心にしつつも、高校履修・大学入試レベルの語彙も多く採用し、学習者にあまり負担をかけずに、成功感を与えながら基礎的な語彙力を伸ばすことに重点を置いた。

各セメスターの授業回数に合わせ、コース全体を14の課に分け、1セメスターですべての練習が終わるようにした。それぞれの課はさらに5つのセクションに分けられ、各セクション10個の単語を学習できる仕組みになっている。つまり、各課で（週に）50の単語を学習し、全体で700の単語を学習することができる計算になる（構成図を参照）。CALL教室はいつでも解放してあるため、学生は授業の空いている時間を利用して、自分のペースで学習を進めることができる。

「基本語彙TOEIC 500」を使った語彙学習は、本学の1年生3クラス約120人を対象に、第2セメスターを中心に実施した。学生が確実に学習しているかモニターするために、毎週授業の初めに各課毎の小テストを実施し、その結果を最終評価の20%程度に組み入れた。

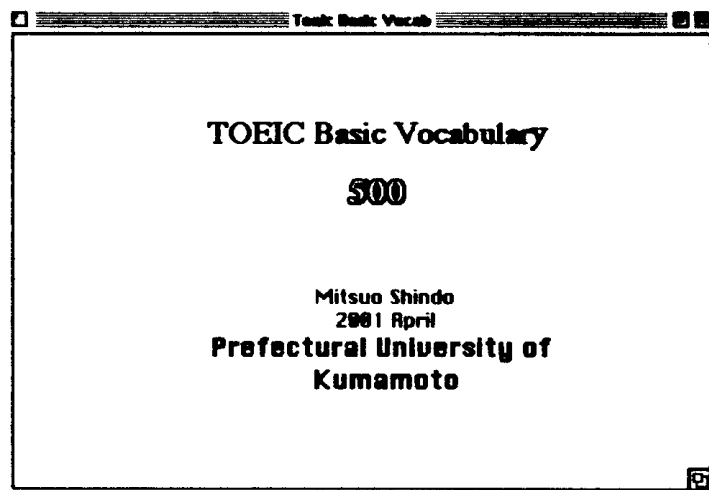
ソフトの構成図



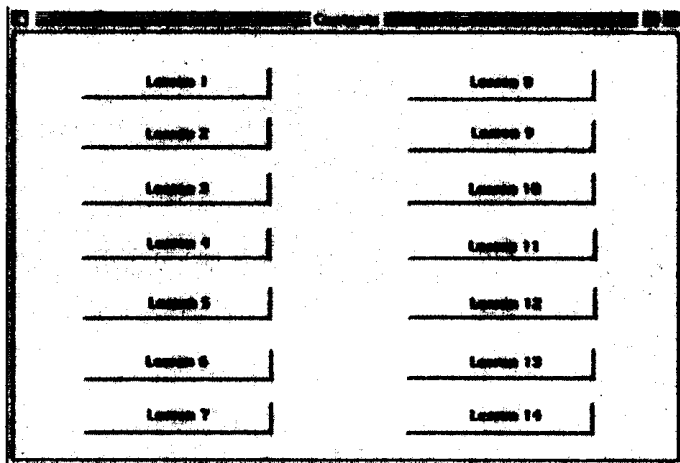
#### 2-4 学習の手順

学習者は以下の手順で学習を進めていく。

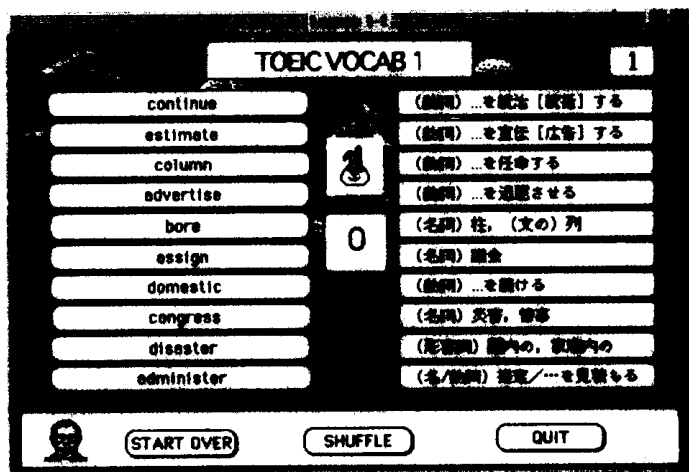
- ① まず、ソフトの起動アイコンをクリックすると次のような起動画面が現れる。



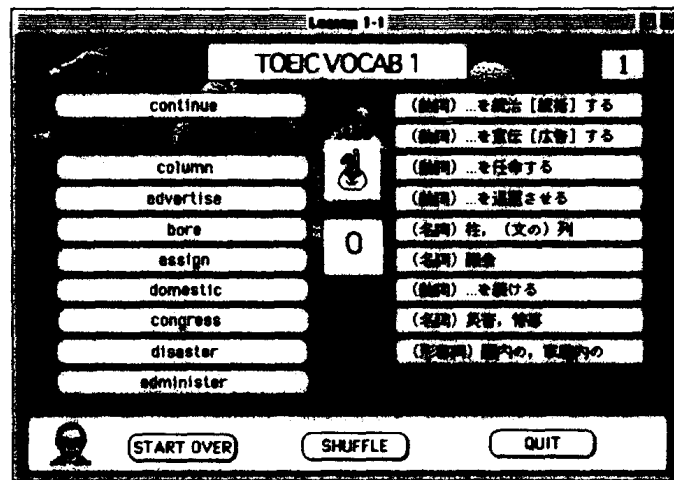
- ② 数秒すると目次画面が表示され、学習者は自分の学習したい課を選択する。



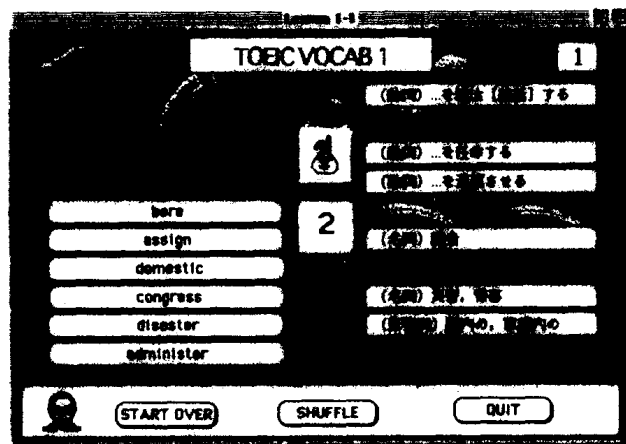
- ③ 各課のボタンをクリックすると練習画面が現れる。左側には10個の英単語が、右側にはその単語の意味が無作為に並んでいる。このような練習問題が各レッスンに5個ずつ含まれている。



- ④ 学習者はまず左列の任意の単語をマウスでクリックし、次にそれにふさわしい意味を右列から選ぶ。英単語はどれを選んでも構わない。答えが正解の場合にはチャイム音と共に英単語と日本語の意味が消えていき、すべての単語と意味の組み合わせが消えるまで続ける。



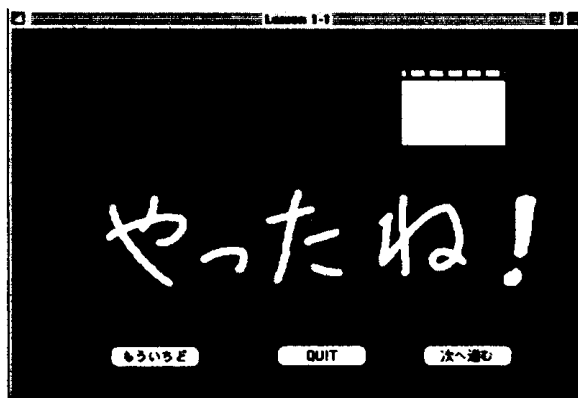
- ⑤ 途中で間違った意味を選択すると、ビープ音と共にその項目はそのまま残り、中央のウィンドウに間違いの数が加算されていく仕組みになっている。(次の画面は2回間違えた場合)



- ⑥ 終了時の不正解数が1回以内の場合は、ファンファーレと共に下のよう な動画が現れる。「次へ進む」をクリックすると次のセクションに進むことができる。「もういちど」を選択すると先へ進まず、そのセクションの問題を再度学習できる。その際、学習者が確実に意味を覚えられように、英単語の並び順は毎回変わる（シャッフルされる）ようにプログラムされている。



(アニメーション画面)

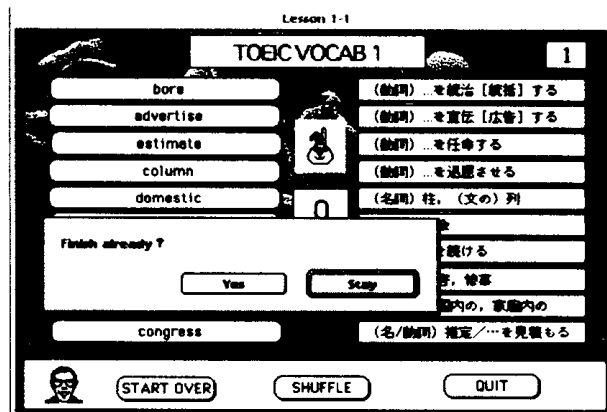


- ⑦ 終了時の不正解数が2回以上の場合は次のような画面になり、強制的に同じセクションを学習し直すことを要求する。ボタン「はい」をクリックすると同じセクションをもう一度学習できる。その際も単語の並び順は無作為に変更されているため、学習者は単語の位置から意味を覚えてしまうことなく学習を続けることができる。

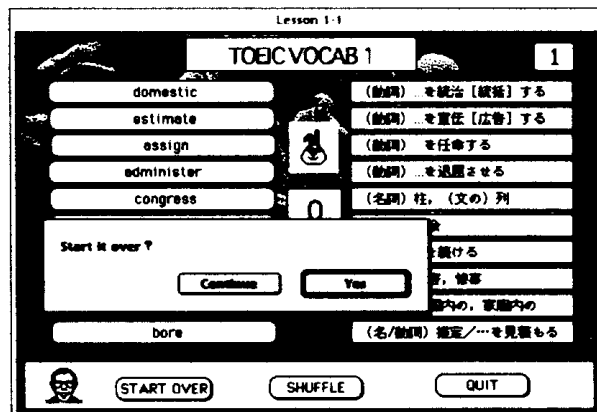


- ⑧ 途中で問題を初めからやり直したい場合は、「Start Over」ボタンを押す。ダイアログボックスの「Yes」ボタンを押せば間違いのカウントが0になり、最初から問題を解くことができる。また、中央下の「Shuffle」ボタンを押すと強制的に英単語の語順が無作為に並び替えられ、正解の位置を覚えてしまうことを自主的に避けることができる。





- ⑨ 途中で学習を止めたい場合は、右下の「Quit」ボタンを押す。下のようなダイアログボックスが現れるので「Yes」を選択すればプログラムが終了する。



### 3 結果

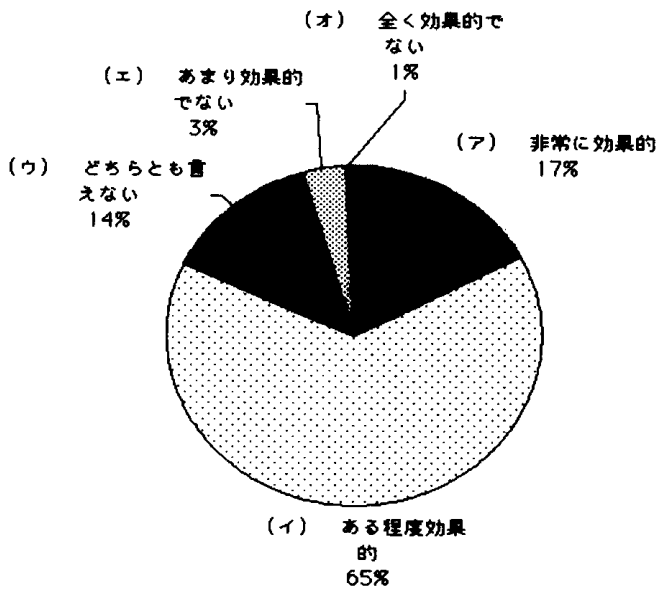
すべての課を終了した後でアンケートを実施し、約117名の学生から感想と  
いうかたちで回答を得た。

#### 3-1 CALL学習について

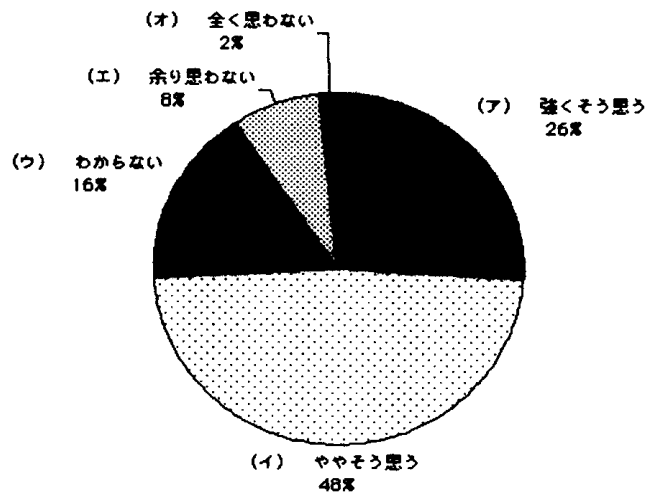
「コンピュータを使った語彙学習はどう思いますか」（アンケート項目1）  
という質問に対して、非常に効果的と答えた学生が17%、ある程度効果的と答  
えた学生が65%いて、コンピュータを利用した今回の語彙学習は概ね効果が  
あったと評価されたと判断できる。また「今後もこのような語彙学習ソフトを  
使った学習を望みますか」（アンケート項目8）という質問には、「強くそう思

う」が26%、「ややそう思う」が48%、また、「コンピュータを使った学習形態を来年も継続して欲しいですか」(アンケート項目13)という質問においても同様の結果を得た(巻末資料参照)。以上のことから、学習者は、本語彙ソフトを含め、コンピュータを使った学習形態を好意的に受け止めていることがわかる。

1. コンピュータを使った語彙学習はどう思いますか。

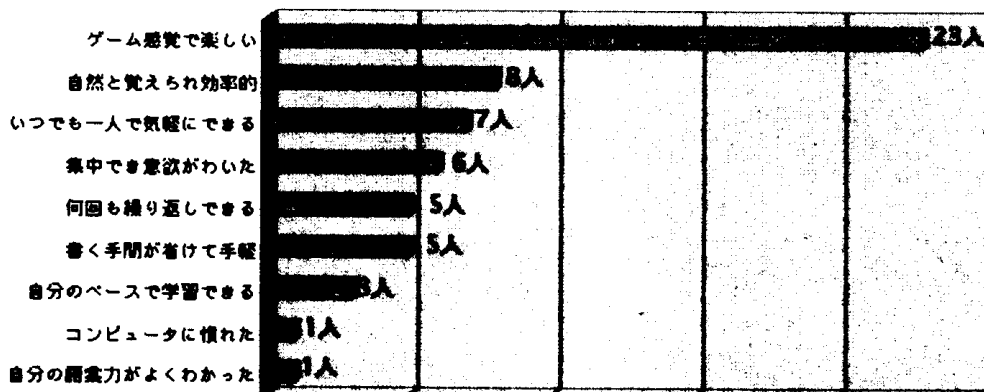


8. 今後もこのような語彙学習ソフトを使った学習を望みますか。



具体的には、コンピュータを使った学習形態は、学習者にどのように受け止められているのであろうか。コンピュータを使った語彙学習について良かった点、悪かった点を自由に記述してもらった。まず良かった点であるが、「ゲーム感覚で楽しい」と答えた学生が23人いて、他より際立って多い。「自然と覚

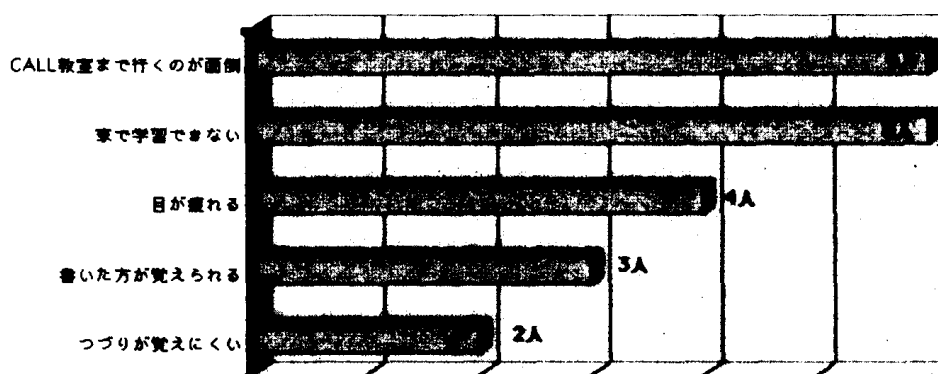
コンピュータを使った学習で良かった点



えられ効率的」とCALLの学習効率の良さを指摘した学生が8人いた。「いつでも一人で気楽にできる」という理由も7人と多く、自分の都合のいい時にリラックスした雰囲気の中で学習できるCALLの学習形態に好意的な態度を示している。「繰り返し学習できる」という理由を挙げた学生が5人、「自分のペースで学習できる」と答えた学生が3人いて、学習者は他人のペースに左右されずに、必要なら何度でも学習できるCALLの特性を認めている。また、「集中でき意欲がわいた」と答えた学生が6人いて、動機付けの意味からもCALLは効果的な学習形態だと思われる。これらは野澤（1990）の指摘しているCALLの利点ともほぼ一致している。McCarthy（1995）もCALLは語学教育に新たな方向性を与えてくれ、教室での学習内容を定着させるものとして有効であり、学習者に楽しみと個人のレベルに応じた学習の機会を与えてくれると述べている。

反対に、コンピュータを使った学習で良くなかった点であるが、総数としては良かった点よりも回答は少なかった。「家で学習できない」ことを挙げた学生が6人いたが、今後はインターネットを利用して、いつでもどこからでもアクセスできるシステム作りも考えていかななくてはならないであろう。

コンピュータを使った学習の良くなかった点



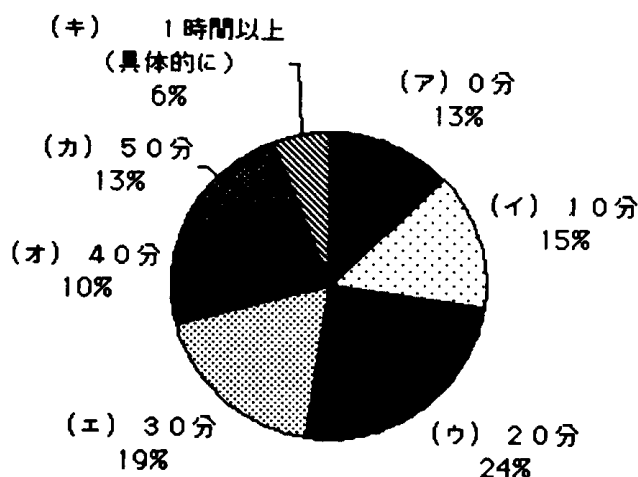
### 3-2 学習時間

本語彙学習ソフトを使って1週間にどのくらいCALL教室で学習したかであるが（アンケート項目2）、グラフからも分かるように個人差がかなりある。

アンケートに答える際には、四捨五入した学習時間を選んでもらった。

学生からのデータを基に計算してみると、このソフトを使った語彙学習に費やした時間は、一人あたり週に約26分であった。語学習得には依然十分な学習時間とは言えないが、それでも学生達が授業の空き時間を利用して、確実に英語学習に取り組んでいることがわかった。中には50分以上学習した学生が22名（全体の19%）いて、やる気のある学生には良い励みになったと思われる。しかし、全く利用しなかったという学生も15人（全体の13%）もいて、いかに多くの学生をこの取り組みに巻き込むかが今後の課題である。

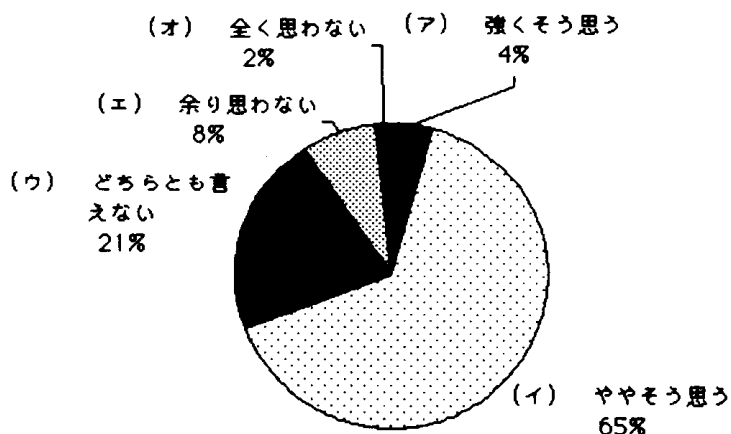
2. この語彙学習ソフトで学習するために、一週間に平均どのくらいCALL教室を利用しましたか。



### 3-3 定着度

この学習ソフトを一通り終了した段階で、学習者に自己評価という形で語彙力が向上したと思うかどうか答えてもらった（アンケート項目3）。「強くそう思う」は全体の4%に過ぎなかったが、「ややそう思う」を加えると約70%の学生が何らかのかたちで語彙力が向上したと感じている。しかし、「全く思わない」「余り思わない」と否定的な反応を示した学生も全体の10%程度でいて、ソフトの内容や方法を含めて、まだ改善の余地は残っていると言えよう。

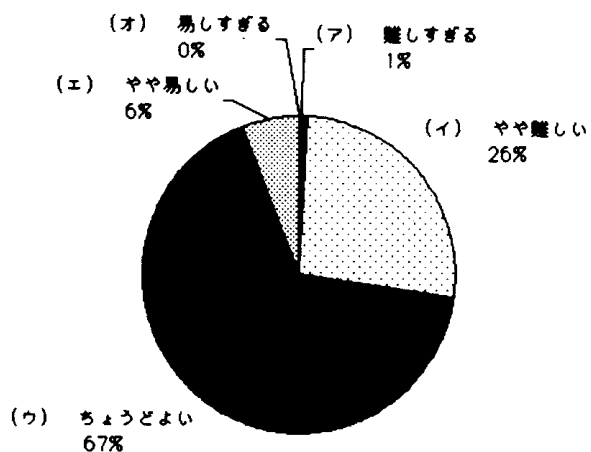
3. このソフトで学習して語彙力はついたと思いますか。



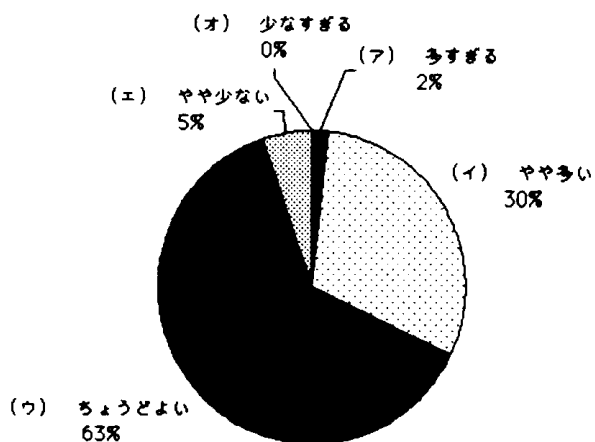
### 3-4 学習内容

本語彙ソフトの語彙レベルに関しては、「ちょうどよい」と答えた学生が全体の67%であり、また1週間に50個の語彙を学習するペースも「ちょうどよい」と答えた学生が63%だった。やや内容が難しいと感じている学生が26%、やや学習量が多いと感じている学生が30%いるが、大学1年レベルの語彙力をつけるためには概ね適度な内容だったと判断できる。逆に内容が易しすぎると感じている学生や学習量が少ないと感じている学生も若干いて、彼等のやる気を失わせない意味からも、今後はある程度レベルの高い学習内容も提供していく必要があると思われる（アンケート項目4、5）。

4. 学習した語彙レベルはどうですか。



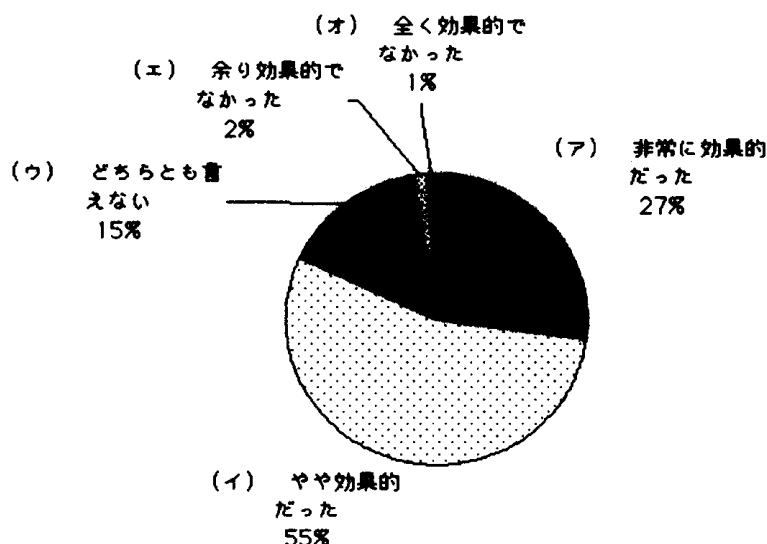
5. 1週間に1課のペースで学習するには、単語数(50個)はどうでしたか。



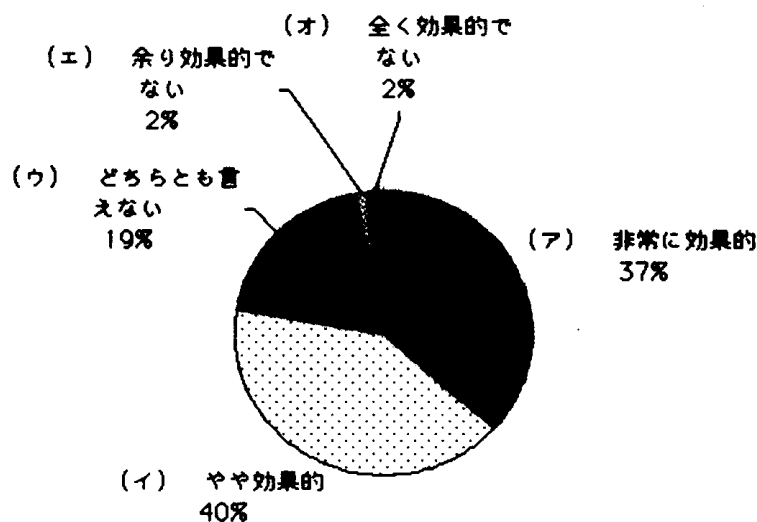
### 3-5 評価方法

先にも述べたように、本語彙学習ソフトは、1週間に1課の割合で学習が進むよう設定し、それに合わせて毎週授業の初めにその課の小テストを実施した。これは学習者の学習状況をモニターする意味だけでなく、学習の動機付けとしても効果があると判断したからである。アンケート結果から（アンケート項目6）、このような評価を毎週行うことを「非常に効果的」と答えた学生が27%、「やや効果的」と答えた学生が55%いて、全体の8割以上の学生が定期的に評価されることを肯定的に受け止めていることがわかった。また、その単語テストの結果を英語クラスの最終評価に加えることに対しても（アンケート項目

6. 毎回授業で各課のテストをするのはあなたの学習にとって効果的でしたか。



7. 成績の一部に単語テストの結果を加えるのはあなたの学習にとって効果的だと思いますか。



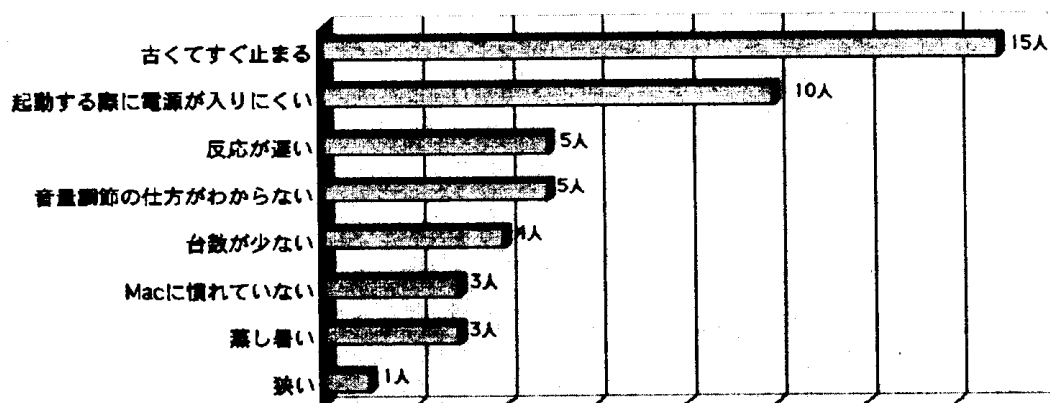
7)、「非常に効果的」が37%、「やや効果的」と答えた学生が40%と、この評価方法を積極的に受け止めている様子がわかる。以上のことから、学習者は自分が学習した内容について適正な方法で、かつ定期的に評価されることを望む傾向があり、またそれを学習の拠り所と考えていることがわかる。特に英語学習の目的を見失いがちな本学部の学生にとっては、このような取り組みは学習の動機付けの意味から効果的であると思われる。

### 3-6 学習環境

本学習ソフトを支えるハードウェアについては、セクション1「現状」の中で簡単に述べたが、利用した学生の反応はどうだったであろうか。アンケート項目11の回答結果から、半数以上の学生がCALL教室の機器の古さを指摘し、学習に何らかの支障を感じていると答えている。自由記述式のアンケートでも、古くてすぐ止まる、電源が入りづらいといった初歩的なトラブルを指摘する意見が多い。その他、台数が少ない、蒸し暑いといった苦情もあり、改善の余地がある。CALL教室が狭いという苦情も1件あった（アンケート項目15）。

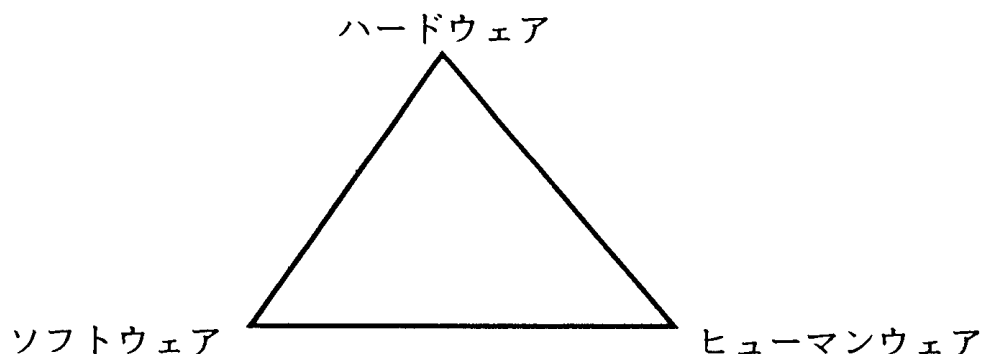
現在のCALL教室はPainter (1995:137) が指摘しているように、全く授業活動を阻害しているとはまでは言わないが、設計者が授業中の教師と学習者の行動を配慮して設計したとは言い難いものである。CALL教室では学生は個人でコンピュータの前に座って学習するというイメージがあるが、時には共同で作業ができる十分なスペースが必要である。機械が相手の学習だけに、リラックスして学習できる自由な空間が必要であろう。

15 CALL教室の設備について何か問題がありますか。あったら書いて下さい。



#### 4 今後の課題とまとめ

野澤 (1998) は30~40人といった多人数クラスでは個々の学習者の能力差や興味に合わせたコミュニケーション能力を養成するのは困難であるが、コンピュータを利用して学習者中心の学習スタイルのクラスを提供することによって解決できることも多くなる、とCALLの有用性を述べている。しかしその前提として、図のように、ネットワーク化され整備されたコンピュータ環境（ハードウェア）、質量ともに充実したソフト（ソフトウェア）、そして十分な維持管理と人的サポート体制（ヒューマンウェア）の3つが保証されることが必要であるとも指摘している。



ハードウェアに関しては、本大学のCALL教室の機器はかなり古く、学生からの不満も多い。機器の更新だけでなく、CALL教室の広さ、配置など、学習に適した環境をできるだけ早急に確保する必要がある。ヒューマンウェアに関しても、CALL教室の運営やメンテナンスが十分出来る専門家の配置はできていないのが現状である。また、語学教員の間での情報交換などの協力体制作りも今後考えていかななくてはならない問題である。

今回の取り組みで実際どの程度読解力や聴解力が向上したかは判断できなかったが、アンケート調査から、CALLによる語彙学習の形態は、学習者に好意的に受け止められ、学習効果があると認識されていることがわかった。CALL教育は授業形態の多様性を広げ、学習者に対して動機付けを与える意味からも今後より積極的に活用される価値があるということも判断できた。また外国語教育に十分な授業時間数が割り当てられていない現行カリキュラム体



制では、CALLはそれを補う選択枝の一つに成り得ることもある程度確認できた。今回作成した語彙学習ソフトは、大学入試レベルの語彙の復習を兼ねた大学1年生の基礎固めを目的としたため、高度な語意は極力避けた。また時間的な制約から、コンテキストから離れた単語集という形での認識語彙の増強を目指す内容に留まった。今後は学生からのフィードバックをもとに、より高度で使用場面に即した、語彙習得のためのCALLソフトの開発と実践が一層望まれるであろう。

### 参考文献

北海道大学言語文化部英語教育系 (2000) 北海道大学英語語彙表 Version 2.0.2

McCarthy, B. (1995). Grammar drills: what CALL can and cannot do. *ON-CALL* 9(2)

村田 年 (2002) 「新指導要領の語彙制限がもたらすもの」『英語教育』 Vol.50, No.12. 20-22.

Nation, I. S. P. (1990). *Teaching & Learning Vocabulary*. Boston: Heinle & Heinle.

野澤和典 (1990) 「語学教育CAIシステム (L-TUTOR) の開発について」豊橋技術科学大学人文・社会工学系紀要『雲雀野』12, 75-88

野澤和典 (1998) 「コンピュータと英語教育」『愛知大学教養部一般教育論集』14, 83-104

Nozawa, K. (1998). The World Wide Web Projects Through Collaborative Learning, *Ritsumeikan Keizaigaku* 47 (2-3-4): 350-358

島本たい子 (2002) 「なぜ語彙力を増やす必要があるのか」『英語教育』 Vol.50, No.12. 8-10

## 資料 1

TOEIC 語彙学習ソフトに関するアンケート(2001年12月)

1. コンピュータを使った語彙学習はどう思いますか。

(ア) 非常に効果的	(イ) ある程度効果的	(ウ) どちらとも言えない	(エ) あまり効果的ではない	(オ) 全く効果的ではない
------------	-------------	---------------	----------------	---------------

2. この語彙学習ソフトで学習するために、一週間に平均どのくらい CALL 教室を利用しましたか。

(ア) 0分	(イ) 10分	(ウ) 20分	(エ) 30分	(オ) 40分	(カ) 50分	(キ) 1時間以上(具体的に) ( )時間( )分
--------	---------	---------	---------	---------	---------	------------------------------

3. このソフトで学習して語彙力はついたと思いますか。

(ア) 強く思う	(イ) やや思う	(ウ) どちらとも言えない	(エ) 余り思わない	(オ) 全く思わない
----------	----------	---------------	------------	------------

4. 学習した語彙レベルはどうですか。

(ア) 難しすぎる	(イ) やや難しい	(ウ) ちょうどよい	(エ) やや易しい	(オ) 易しすぎる
-----------	-----------	------------	-----------	-----------

5. 1週間に1課のペースで学習するには、単語数(50個)はどうでしたか。

(ア) 多すぎる	(イ) やや多い	(ウ) ちょうどよい	(エ) やや少ない	(オ) 少なすぎる
----------	----------	------------	-----------	-----------

6. 毎回授業で各課のテストをするのはあなたの学習にとって効果的でしたか。

(ア) 非常に効果的だった	(イ) やや効果的だった	(ウ) どちらとも言えない	(エ) 余り効果的ではなかった	(オ) 全く効果的ではなかった
---------------	--------------	---------------	-----------------	-----------------

7. 成績の一部に単語テストの結果を加えるのはあなたの学習にとって効果的だと思いますか。

(ア) 非常に効果的	(イ) やや効果的	(ウ) どちらとも言えない	(エ) 余り効果的ではない	(オ) 全く効果的ではない
------------	-----------	---------------	---------------	---------------

8. 今後もこのような語彙学習ソフトを使った学習を望みますか。

(ア) 強く思う	(イ) やや思う	(ウ) わからない	(エ) 余り思わない	(オ) 全く思わない
----------	----------	-----------	------------	------------

9. TOEIC の学習を授業に取り入れることに対してどう思いますか。

(ア) 非常に賛成	(イ) どちらかという賛成	(ウ) どちらとも言えない	(エ) どちらかという反対	(オ) 全く反対
-----------	---------------	---------------	---------------	----------

10. 来年度の TOEIC 全体受験は6月と12月、どちらがいいですか。

(ア) 12月がいい	(イ) どちらかという12月	(ウ) どちらでもいい	(エ) どちらかという6月	(オ) 6月がいい
------------	----------------	-------------	---------------	-----------

11. CALL 教室のコンピュータが古くて学習に支障を感じますか。

(ア) 強く思う	(イ) やや思う	(ウ) わからない	(エ) 余り思わない	(オ) 全く思わない
----------	----------	-----------	------------	------------

12. このソフト以外の目的で CALL 教室を使っていますか。

(ア) 全く使わない	(イ) 余り使わない	(ウ) 時々使う	(エ) よく使う	(オ) 毎日のように使う
------------	------------	----------	----------	--------------

13. コンピュータを使った学習形態を来年も継続して欲しいですか。

(ア) 強く思う	(イ) やや思う	(ウ) わからない	(エ) 余り思わない	(オ) 全く思わない
----------	----------	-----------	------------	------------

14. この語彙ソフトで改善した方がいいと思う点があったら書いて下さい。

15. CALL 教室の設備について何か問題がありますか。あったら書いて下さい。

16. コンピュータを使った学習でよかったと思うことがあれば書いて下さい。

17. コンピュータを使った学習でよくなかったと思うことがあれば書いて下さい。

ご協力ありがとうございました。(進藤)

資料 2

アンケート結果

1. コンピュータを使った語彙学習はどう思いますか。	(ア) 非常に効果的	(イ) ある程度効果的	(ウ) どちらとも言えない	(エ) あまり効果的ではない	(オ) 全く効果的ではない				
	%	17%	65%	14%	3%	1%	100%		
	人数	20	75	16	4	1	116		
2. この語彙学習ソフトで学習するために、一週間に平均どのくらい CALL 教室を利用しましたか。	(ア) 0分	(イ) 10分	(ウ) 20分	(エ) 30分	(オ) 40分	(カ) 50分	(キ) 1時間以上(具体的に)		
	%	13%	15%	25%	19%	10%	13%	6%	100%
	人数	15	17	29	22	12	15	7	117
3. このソフトで学習して語彙力はついたと思いますか。	(ア) 強く思う	(イ) やや思う	(ウ) どちらとも言えない	(エ) 余り思わない	(オ) 全く思わない				
	%	4%	65%	21%	8%	2%	100%		
	人数	5	76	25	9	2	117		
4. 学習した語彙レベルはどうですか。	(ア) 難しすぎる	(イ) やや難しい	(ウ) ちょうどよい	(エ) やや易しい	(オ) 易しすぎる				
	%	1%	26%	67%	6%	0%	100%		
	人数	1	31	78	7	0	117		
5. 1週間に1課のペースで学習するには、単語数(50個)はどうでしたか。	(ア) 多すぎる	(イ) やや多い	(ウ) ちょうどよい	(エ) やや少ない	(オ) 少なすぎる				
	%	2%	30%	63%	5%	0%	100%		
	人数	2	35	73	6	0	116		
6. 毎回授業で各課のテストをするのはあなたの学習にとって効果的でしたか。	(ア) 非常に効果的だった	(イ) やや効果的だった	(ウ) どちらとも言えない	(エ) 余り効果的ではなかった	(オ) 全く効果的ではなかった				
	%	27%	55%	15%	2%	1%	100%		
	人数	32	64	18	2	1	117		
7. 成績の一部に単語テストの結果を加えるのはあなたの学習にとって効果的だと思いますか。	(ア) 非常に効果的	(イ) やや効果的だ	(ウ) どちらとも言えない	(エ) 余り効果的ではない	(オ) 全く効果的ではない				
	%	37%	41%	19%	2%	2%	1		
	人数	43	48	22	2	2	117		
8. 今後もこのような語彙学習ソフトを使った学習を望みますか。	(ア) 強く思う	(イ) やや思う	(ウ) わからない	(エ) 余り思わない	(オ) 全く思わない				
	%	26%	48%	16%	8%	2%	100%		
	人数	30	56	19	9	2	116		
9. TOEIC の学習を授業に取り入れることに対してどう思いますか。	(ア) 非常に賛成	(イ) どちらかという賛成	(ウ) どちらとも言えない	(エ) どちらかという反対	(オ) 全く反対				
	%	53%	35%	9%	2%	1%	1		
	人数	61	41	11	2	1	116		

10. 来年度の TOEIC 全体受験は6月と12月、どちらがいいですか。	(ア) 12月がいい	(イ) どちらかというと12月	(ウ) どちらでもいい	(エ) どちらかというと6月	(オ) 6月がいい		
	%	30%	28%	28%	10%	3%	100%
	人数	35	32	33	12	4	116
11. CALL 教室のコンピュータが古くて学習に支障を感じますか。	(ア) 強く思う	(イ) やや思う	(ウ) わからない	(エ) 余り思わない	(オ) 全く思わない		
	%	13%	42%	21%	21%	3%	100%
	人数	15	49	25	24	4	117
12. このソフト以外の目的で CALL 教室を使っていますか。	(ア) 全く使わない	(イ) 余り使わない	(ウ) 時々使う	(エ) よく使う	(オ) 毎日のように使う		
	%	91%	7%	3%	0%	0%	100%
	人数	106	8	3	0	0	117
13. コンピュータを使った学習形態を来年も継続して欲しいですか。	(ア) 強く思う	(イ) やや思う	(ウ) わからない	(エ) 余り思わない	(オ) 全く思わない		
	%	26%	48%	16%	7%	3%	100%
	人数	30	56	19	8	4	117

(14 以降の設問に関しては省略)